

一年間の活動を振り返って

今年も怡土支部ではさまざまな活動を通じて人権を尊重する意識や態度について学びました。

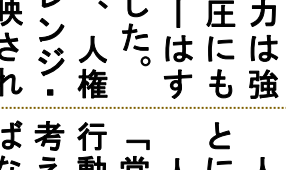
9月24日 前原東中学校、11月30日怡土小学校で開催された人権学習参観は、以前は同和問題を中心に学習していた感じでしたが、現在は人権（性別、外国人等）全般にわたって



7月6日の人権講演会は、朗読とピアノ演奏で平和の尊さ、命の大切さを改めて考える機会となりました。



11月6日のフィールドワークは、平戸市のカクレキリシタンの史跡見学でした。信仰の精神力は強く、どんな弾圧にも屈しないパワーはすごいと感じました。



12月1日は、人権映画祭で「オレンジ・ランプ」が上映されました。

それぞれの支部や小中学校から活動報告がありました。特に中学生による積極的な発表が印象に残りました。

11月6日のフィールドワークは、平戸市のカクレキリシタンの史跡見学でした。信仰の精神力は強く、どんな弾圧にも屈しないパワーはすごいと感じました。

【瑞梅寺行政区推進委員】

主要行事

- 4/20 支部推進委員研修
- 5/10 第1回広報部会
- 5/10 第1回研修部会
- 7/1 人権だより(1号)発行
- 7/6 人権講演会
- 7/12 第2回研修部会
- 8/2 2支部交流会
- 9/6 第2回広報部会
- 9/24 前原東中学校人権学習参観及び意見交換会
- 10/10 第3回研修部会
- 10/20 怡土ふるさと文化祭
- 11/1 人権だより(2号)発行
- 11/6 フィールドワーク
- 11/30 怡土小学校人権学習参観及び意見交換会
- 12/1 糸島市人権週間人権映画祭
- 12/12 第3回広報部会
- 2/6 推進委員総括会議
- 3/1 人権だより(3号)発行



- ※その他の活動
- あいさつ運動
 - 出前映画

- 10/6 曾根・井田・西堂
 - 11/9 大丸
 - 11/30 三雲
 - 12/8 井原
 - 11/23 末永
 - 12/1 高来寺
- 【合計：226名】

これは、市同協の活動の大きな柱の一つでもある「学社連携」の充実が子どもたちの安心・安全に繋がっている、小中学校に大変感謝しているところです。

地域の皆様、これからご自身たちのグループやサークルなど、お仲間うちの活動の場を通じまして、楽しみながら「みんなが楽しく暮らせる地域づくり」にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

【怡土支部長 伊東山秀水】

怡土人権だより

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部
略称：市同協怡土支部

令和6年度
第3号
3月1日発行

今回のアンケートについて
毎年、怡土支部独自で作成したアンケートでしたが、内容が充実し、高年齢者アンケートでも多くの高年齢者が協力してくれました。ご意見が、市の高齢者福祉に役立ちます。協力ありがとうございました。



区長会長のあいさつ

「人生を諦めなくていい」と気づいた夫婦を取り巻く世界が変わっていく。会社の仕事も営業から事務職に移り、社内みんなの協力もあり、仕事を続けることができるようになるという感動的な映画を観て、私の母が認知症になり、妻とともに介護した6年間のことを思い出しました。

そのときは、まだその病気についての知識がほとんどなくて、記憶力がゆっくりと減少して

【井原行政区推進委員】

この先出来ないことが出てくると思いますが、いつでも居場所があるように、周りの人と支え合える生き方をしていきたいと思っています。

【高祖行政区推進委員】

この映画は、39歳で認知症と診断されながらも、働きながら講演活動を続けている丹野智文さんの実話にもとづく物語です。

会社で勤務している時に、顧客の名前を忘れる等の異変が訪れる。

下された診断は、「若年性アルツハイマー認知症」。妻と二人の娘さんの4人家族、最初は誰にも言えず、驚き、戸惑い、不安に押し潰されていく、とうとう退社も決意する。

しかし、ある出会いがきっかけとなり夫婦の意識が変わる。

いくだけぐらしい知識しかありませんでした。その為、病気が進むにつれ、しっかりとしていた母が変わっていくことに腹を立て、いやな思いをさせた気がします。

認知症という病気についてもっと知識があれば母に優しく接することができたかもしれません。

この映画を観て、丹野さんは妻の懸命な支え、そして会社の同僚の協力、上司の思いやりもあり、仕事を続けられた。

私自身、現在72歳、幸いまだ仕事（農業）を続けて

【井原行政区推進委員】

貴重な展示物には、信仰を決して手放さなかった、当時の人々のしたたかさ、誇りがにじんできているように思いました。

人権映画祭
R6年度人権映画祭
「オレンジ・ランプ」
を鑑賞して

切支丹の里 生月に学ぶ！ ーフィールドワーク報告ー



学校教育の中で名を覚え、知っているつもりでいた「カクレキリシタン」。

その迫害の歴史、信仰の自由さ、え許されなかった歴史に、今回はじめてふれることに

「平戸オランダ商館」と「生月島博物館・島の館」、「カトリック山田教会」ではそれぞれにガイド案内があり、幕府の禁教政策に翻弄されながらも、いのちがけで抗った様子が伝わってきました。

歴史は常に、それを語る人と、無言の証人である種々の展示物によって明らかになります。



